

3. 論文の採否：論文の採否は Editorial board のメンバーによる査読審査の結果に従い決定される。ただし、シンポジウムなどの記録や治験論文については編集部で採否を決定する。
4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 採択論文：論文が採択された場合、原稿を3.5インチフロッピーディスク・MO ディスク・CD-R・CD-RW のいずれかに保存し、編集部へ送付する。ディスクには論文受付番号・筆頭著者名・機種名・ソフトウェアとそのバージョンを明記する。Windows の場合は MS-Word・一太郎、また Macintosh の場合は EG-Word・MS-Word とし、特に Macintosh においては MS-DOS テキストファイルに保存して提出すること。
6. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
7. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,775円(税込)、英文は6,825円(税込)、超過頁は1頁につき7,350円(税込)、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は31,500円(税込)、6頁以上は1頁毎に10,500円(税込)を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
8. 別刷：30部までは無料とし、それを超える部数については実費負担とする。著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer·PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編集後記

卒後臨床研修中の新人医師4,300人を対象とした厚生労働省のアンケート結果が公表された。報道によると一般病院での研修医は50%以上が「満足している」と回答したのに対し、大学病院の研修医は35%のみが「満足している」と答えたという。また、大学病院で満足出来ない理由としては「待遇・処遇の悪さ」と「不十分な症例経験」を挙げていたという。

まず、待遇の悪さであるが、彼らは大学の指導教官がどれくらいの給与をもらっているのか認識しているのだろうか。症例経験が不十分とのことであるが、医療現場のシステムにさえ慣れていない新米医師が、症例をやたら積み重ねたところで何のメリットがあるのだろうか。こんなことを言うとおしかりをうけるかもしれないが、医師、特に外科医には丁稚奉公が必要である。料理を作らせてもらう前に、庭掃除や雑巾掛けをして「おもてなし」のなんたるかを知る必要がある。皿洗いをしながら素材の見分け方や料理作りのシステムを覚え込む必要があるのである。

来年度からは、不満のかたまりの新人医師達が専門医教育に入る。いまさら庭掃除や雑巾掛けをさせるわけにはいかないのかもしれない。初期研修の2年がもたらす負の影響を心配しているのは大学の教官だけではないはずである。

(小川 修)

泌尿器科紀要 第51巻 第8号 2005年8月25日 印刷 2005年8月31日 発行
 発行 小川 修 顧問 吉田 修 発行所 泌尿器科紀要刊行会
 〒606-8392 京都市左京区聖護院山王町18 メタボ岡崎301号 電話 (075) 752-0100
 FAX (075) 752-0190
<http://www.kiyou.jp/>

印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入
